



自己紹介

- 100BLG株式会社 (Executive Director & Evangelist)
- 株式会社日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門
高齢社会イノベーショングループ 客員コンサルタント
- NPO町田市つながりの開 理事長
- 内閣府 認知症施策推進関係者会議 委員
- 一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 理事
- World Young Leaders in Dementia メンバー

1976年、神奈川県生まれ。カンタベリー大学卒業後、老年精神科ソーシャルワーカー、在宅介護支援センター、第三セクターのE型デイサービス、木之下徹Dr.の元で認知症当事者ネットワークづくりなどを経て、現職。

認知症になったら 終わりなんて さみしいじゃないか。

認知症になったら、年賀状が届かなくなった。
認知症になったら、知らんぷりされた。
認知症になったら、会ってもらえなくなった。

わたしはわたしなのに、
認知症になったら、終わりなんてさみしいじゃないか。

BLGは地域・社会・仲間とのつながりを大切にしまったく新しい認知症共創コミュニティです。

BLGは要支援・要介護認定を受けている方が主な対象と

あなたの近くのBLGをさがす 

加盟事業所募集中
自



会社概要

法人名
100BLG株式会社
(ヒャクビーエルジー)

設立
2019年5月28日

代表
代表取締役 前田隆行

本店所在地
東京都町田市

資本金
300万円

事業内容

1. 介護サービス従事者向け研修
2. 介護事業所等の活動立ち上げ支援
3. 企業や地域における「しごと」の開拓マッチング
4. 全国の BLG のネットワーク
5. 「社会参加」活動に関する調査研究社会への発信講演
6. 各地の BLG をハブとした認知症フレンドリー地域づくりの支援

お問い合わせ

100BLGコーポレートWEBサイト
<https://100blg.org>

地域・社会・仲間とつながる
加盟型認知症共創コミュニティ
BLG WEBサイト
<https://blg.life>



100BLG NOW!

01
2023.03

100BLGの現在地

認知症の人と家族が「ともに生きる拠点」を
日本に100か所つくります。



BLG八王子

ひとりの当事者が「普通に暮らしたい」という想いからスタートしたデイサービス。八王子駅にほど近い住宅街のなかにある一軒家で、少人数で仲間とともに毎日を過ごす。「ここではなんでも話せるからいい」というのがメンバーたちの口ぐせ。かつては八王子市では「社会参加型就労」が認められずにいたが、BLGとなることで実現。現在は全力でメンバーと一緒に活動している。

VISION

認知症になっても、地域社会仲間と
つながりが切れない社会を目指します。

BLG 高知

2019年、若年性アルツハイマー型認知症と診断された山中しのぶが、自身の居場所を模索し、自分が通いたい施設をつくろうと立ち上げた認知症当事者が運営する全国初のデイサービス。



ビーエルジー

BLG

||

「はたらく」を通じて 地域・社会・仲間と つながるコミュニティ

BLG は日本で初めて社会参加型デイサービスを実現した前田隆行がスタートした、まったく新しい加盟型認知症共創コミュニティです。できることを当たり前、新たなチャレンジも当たり前。認知症・要介護になってから忘れていた、当たり前のコミュニケーションを取り戻すことができます。

主な協働企業法人

HONDA / TOYOTA / CANON / FUJITSU / イトーヨーカドー / コクヨ / 花王 / 大日本印刷 / POLA
Panasonic / 出光 / スタジオジブリ / ドイツ大使館 / 千葉大学 / 北里大学 / 東京大学 / 上智大学 / 青山大学
専修大学 / 慶応大学 / 早稲田大学 / 桐蔭横浜大学 / 相模女子大学 / 桜美林大学 / 昭和医科大学 / 鎌倉女子大学

当たり前のコミュニケーションを取り戻すための、
3つのマインド。

1

何をしたいか自分で決める

BLG に決められたプログラムはありません。どんな地域社会活動をするのか、お昼に何をどうやって食べるか、その日の予定を毎朝自分の意思で決定します。

2

自分の役割を見つける

マッサージ、コーヒー淹れ、ムードメーカー。誰かのためにあたまやからだを動かせば、それは誰かの役に立っています。BLG に来れば、きっと役割を見つけることができます。

3

仲間と感情を共有する

職場や学校がそうであったように、自分が決定した行動を続けていくことで、自然と周りには仲間が増えていきます。ともに笑い、感情を共有する当たり前の喜びを思い出すことができます。

BLG 八王子 × イトヨーカドー

当事者から見える景色を変える 「街づくり」への参画

東京都西部に位置する八王子市。駅前には大型の商業施設が並び賑わいを見せる一方、駅から少し離れると閑静な住宅街が広がる。賑やかさと静けさが絶妙なバランスで交じり合う。暮らしやすさがこの街の魅力だ。八王子の駅から10分ほど歩くと、住宅街のなかに見えるくる真っ赤な「だかしやさん」の看板。ここが、今回の舞台となる地域密着型通所介護施設「BLG 八王子」だ。定員は8名。アットホームな雰囲気が特徴の拠点だ。朝9時過ぎると、徐々にメンバーが集まりはじめた。皆を迎えるのはBLG 八王子の看板犬、カツオだ。カツオが尻尾を振りながら近づくと、思わずみんな笑みがこぼれる。

「おいおい、カツオ、これは俺のお茶だぞ（笑）」「取られないように気をつけてね」次第に集まってきたメンバーとスタッフが楽しそうに談笑をするなか、お茶を入れてくれる方がいた。「はい、どうぞー。熱いから気を付けてくださいね」「ありがたいね」スタッフだろうか？いや、メンバーの重成さん（しげさん）だ。BLG 八王子のモットーは「できることは自分でやる」。朝のお茶入れも、血圧測定もメンバーが自分たちで行う。「スタッフ＝支援する人」「メンバー＝支援される人」という関係が固定化されないように、そんな想いが背景にある。

BLG 八王子

住所：東京都八王子市上野町2-3
TEL：042-649-6752
事業種別：地域密着型通所介護
利用者定員：8名
運営法人：株式会社ウインドミル
展開事業所数：2 / 法人職員数：11人



今、BLG 八王子は日々の活動の延長線上に、ある挑戦を行っている。それは、街づくりへの参画だ。街の様々な場所に出かけ、地域の一員、生活者、そして認知症当事者としての声を届けている。日頃買い物をする中での困りごとやその改善点を一緒に考えるためだ。高齢者も安心して来店できる場所にしたいというイトヨーカドーからの依頼を受けて、包括支援センターとともに実施した。

守谷さん「街を安心して一人で歩きたいという当事者の方は多いですね。それを実現できる地域社会にしていきたいな、と。でも、ただ待っているだけでは社会は変わりません。積極的に働きかけて、まずは手の届く範囲の地域社会を変えていく。街づくりは、社会変革の第一歩につながる活動だと考えています」

当日はメンバーが実際に財布を持ち、イトヨーカドーの店内をまわって買い物をした。そのなかで気になったことを伝えていく。「冷凍ケースの奥の方にある商品に手が届かなくて、もう少し前のほうに陳列されていると嬉しいです」「お惣菜に貼ってある商品名や値段のシールは文字が小さくて見えづらいので、いつも中身を直接見て確認して買ってるんだよね。でも、

お買い得シールなどがパッケージ全体に貼ってあると中身が隠れてしまっていて……。中身が見えるようにシールを貼ってもらえると助かります」

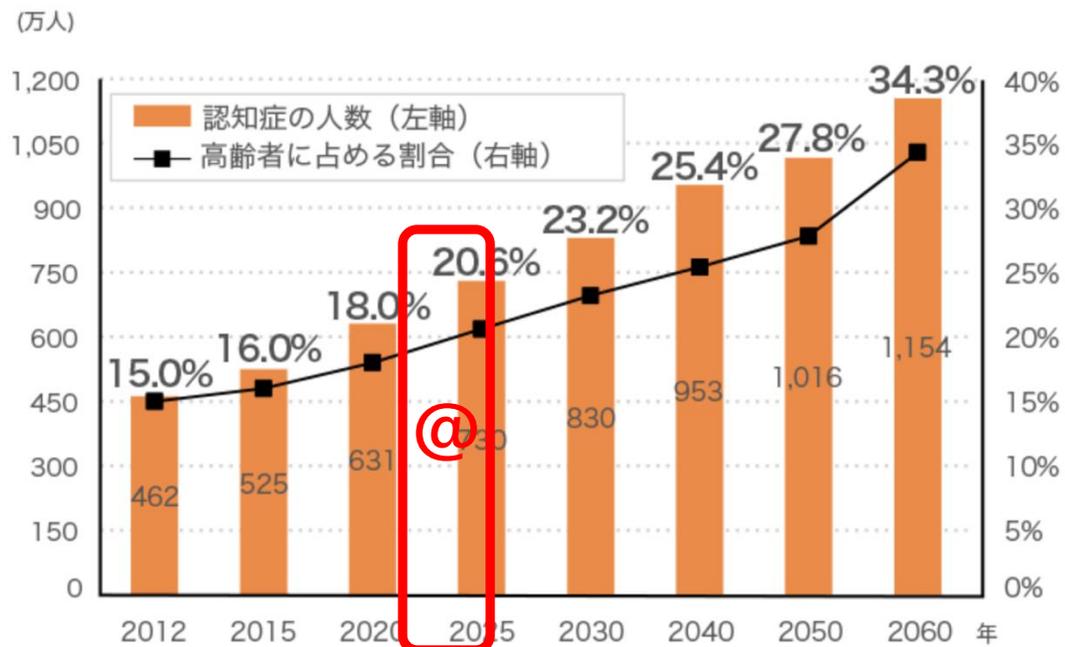
イトヨーカドーでの取り組み以外にも、近年BLG 八王子は積極的に街づくりに関わっている。包括支援センターと共に市民向けの認知症サーター養成講座を開催。また、最近では街のガソリンスタンドと協働して、安心して街を歩くための拠点づくりも構想している。街のなかの一つのサービスだったBLG 八王子は、今や八王子の様々なアクターを結ぶハブとなりつつある。様々な機関から声をかけてもらう機会も増え、頼りにされていると感じることも増えた代表の守谷さんは話す。

守谷さん「介護という仕事は、実はすごくクリエイティブだと思います。メンバーやスタッフの想いを大切に、それを表現していくこと、そして、地域に働きかけていくこと。どれも既存の枠組みにとらわれず、挑戦が必要なことばかりです。日々の積み重ねによって、当事者から見える景色は少しずつ、でも着実に変わっていく。メンバーとスタッフと一緒にその変化を楽しみながら創っていきたいです」

① ちょっとその前に

100BLG Inc.

認知症のある人



出典：厚生労働省認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）
 ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～の概要

小学生

		こどもの数	未就学の乳幼児(0～5歳)		小学生(6～11歳)		中学生(12～14歳)		
			0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳			
人口(万人)	男女計	1493	557	265	292	612	298	314	324
	男	765	285	136	150	314	153	161	166
	女	728	271	129	142	299	146	153	158
総人口に占める割合(%)		11.9	4.4	2.1	2.3	4.9	2.4	2.5	2.6

出典：総務省統計局人口推計の概要統計トピックスNo.128

共生社会の実現を推進するための認知症基本法 概要

1.目的

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進

⇒ 認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（＝共生社会）の実現を推進

～共生社会の実現の推進という目的に向け、基本理念等に基づき認知症施策を国・地方が一体となって講じていく～

2.基本理念

認知症施策は、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、①～⑦を基本理念として行う。

- ① 全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人として、自らの意思によって日常生活及び社会生活を営むことができる。
- ② 国民が、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深めることができる。
- ③ 認知症の人にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるものを除去することにより、全ての認知症の人が、社会の対等な構成員として、地域において安全にかつ安心して自立した日常生活を営むことができるとともに、自己に直接関係する事項に関して意見を表明する機会及び社会のあらゆる分野における活動に参画する機会の確保を通じてその個性と能力を十分に発揮することができる。
- ④ 認知症の人の意向を十分に尊重しつつ、良質かつ適切な保健医療サービス及び福祉サービスが切れ目なく提供される。
- ⑤ 認知症の人のみならず家族等に対する支援により、認知症の人及び家族等が地域において安心して日常生活を営むことができる。
- ⑥ 共生社会の実現に資する研究等を推進するとともに、認知症及び軽度の認知機能の障害に係る予防、診断及び治療並びにリハビリテーション及び介護方法、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすための社会参加の在り方及び認知症の人が他の人々と支え合いながら共生することができる社会環境の整備その他の事項に関する科学的知見に基づく研究等の成果を広く国民が享受できる環境を整備。
- ⑦ 教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉その他の各関連分野における総合的な取組として行われる。

3.国・地方公共団体等の責務等

国・地方公共団体は、基本理念にのっとり、認知症施策を策定・実施する責務を有する。

国民は、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深め、共生社会の実現に寄与するよう努める。

政府は、認知症施策を実施するため必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講ずる。

※その他保健医療・福祉サービス提供者、生活基盤サービス提供事業者の責務を規定

4.認知症施策推進基本計画等

政府は、認知症施策推進基本計画を策定（認知症の人及び家族等により構成される関係者会議の意見を聴く。）

都道府県・市町村は、それぞれ都道府県計画・市町村計画を策定（認知症の人及び家族等の意見を聴く。）（努力義務）

基本的施策 (素案)

目次

1. 認知症の人に関する国民の理解の増進等 P 3
2. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の増進 P 5
3. 認知症の人の社会参加の機会の確保等 P 8
4. 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護 P10
5. 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等 . . P11
6. 相談体制の整備等 P14
7. 研究等の推進等 P15
8. 認知症の予防等 P17
9. 認知症施策の策定に必要な調査の実施 P19
10. 多様な主体の連携 P19
11. 地方公共団体に対する支援 P20
12. 国際協力 P20

新しい認知症観？



当たり前の姿

丹野智文さんの言葉（抜粋）

①**家族の心配**はわかる。心配してもらっているから**安心**できる

②心配してもいいけど**信用**してあげてほしい

③**心配が先になって失敗させないように先回りをしたら当事者は何も出来なくなってしまう**

④**周りの人達は待つ勇氣**も必要！！

Today's contents

①本人の声

②BLG 町田の活動から

③社会参加

④共生（共創）社会

⑤HOME BLG

⑥情報共有

① 本人の声

*

認知症当事者の方の個人名やお写真をご紹介しますが、
予めご本人及びご家族に掲載許可を得ております。

*

100BLG Inc.



DAYS 日々
/毎日



BARRIERS
障害



LIFE 生
活



GATHERING 集
う場

BLG

BLG 町田

高齢化率70%
超える

地域密着型通所介護

定員15名／1日

スタッフ4名

合計19名の“メンバー”

+ 駄菓子屋の小学生等



いつも始まりは本人の“声”

「認知症と生きる」人生は終わっていかない
認知症は、現時点では残念ながら進行を遂
らせる事しかできない。手術をすれば治る
という病気ではないので、「病を受けとめ、
共に歩むこと」が大仕事である。現実には、
記憶力がだんだん落ちてきたり、慣れない事
柄に対応が難しくなる等不安を感じる事が
多いが、まずは、なるべく心の状態をハツピ
ーに保ちながら、自分が楽しいと感じること
をするのが重要だ。

認知症に理解の無い人は、病気について一
方的な見方をして、全面否定するような傾向
がある。けれど、時間をかければ出来る事
もあるので、自分が困った時、周囲に思いを
伝える事が大切だ。なるべく活動出来る場
所を多く持ち、忘れる事を恐れずに、いろい
ろな情報をどんどん入れて、循環させれば良
いのだ。そして自分らしく正直に生きよう。

平成二十八年五月一日

町田克信



僕にとって認知症は人生のスパイス
のようなもの。



私は認知症でも心豊かに
生きていきたいと思います。
今までの生活を継続していきたいしね。



認知症でもhappyに暮らしたい。
JAZZを聴きながらハイボールを飲む。
山を登るのも最高だね。



認知症を、自分を曝け出せる場所が
皆んなに必要なの。



Q.17

一番の生きがいは何ですか？

地域の子ともふれあうこと

自分が楽しみながらやっていたら満足っていう性格ですからね。今は、ここ（デイサービス）へ来て、勝手に自分の場所つくってますけど。（下校児童が立ち寄る）子ども、可愛いですよ。今の子どもたちって、明るさや強さをみんな持っているんじゃないかな。こういう（地域の）中で、子どもが育っていくっていうのは良いと思う。子どもは神様ね。

Q.18

元気の秘訣は何でしょうか？

おしゃべり

私、おしゃべりでしょ（笑）。おしゃべりってことは、人とのつながりも深くしていけるし、広がっていく。形式的なつながりじゃなくて、受け入れる気持ちっていうのがあると、だんだん、お互いに親密になっていくっていうことがありますから。

Q.19

生きていく上で、大切にしている考えはありますか？

みんなに意見を聞くこと

80にもなったら、認知症にかかるのも当たり前じゃない？ 人生は筋書き通りにはなかないけど。戸惑うことでも、みんなに意見を聞いたりしたら、失敗しないでいけるものです。どのようなことがあっても、人を憎んじだめだし、やっぱり笑って生きていらないといけないね。そしたら、向こうも笑い返してくれるから。

Q.20

認知症の人に接するとき大切なことは何ですか？

その人の気持ちが本当に受け入れられることが大事

一言、かけてあげたいことは、いっぱいあります。結局、気持ちが受け入れられると、そういう悩みがすんと、変わってくるんですよ。理屈じゃないからね。誰かの悩みだと思って相談しても、本当は自分の悩みが半分以上あったりね。人間って、そう違うものじゃなくて、みんな同じような、近いものを持っている集団なんじゃないかなって思います。やっぱり、その人の気持ちが本当に受け入れられることが大事なんじゃないですか。

17～20の質問に答えてくれた方

伊藤さつきさん

1931年生まれ。保健師、学校の養護教諭として長年子どもたちの成長を見守った。現在は、デイサービスの利用者や職員として、お母さんの存在で励まされている。

まちだアイ・ステートメント2

私は、必要な支援の選択肢を幅広く持ち、自分に合った支援を選ぶ。

→ p.14



① デイサービスの仲間とコーヒータイム。お母さんの存在の伊藤さんの様子を見つめる姿も。
② さりげなく周囲に語りかける伊藤さん。「ここが私の居場所」と語る。
③ 帰宅時に立ち寄る児童もいる駄菓子屋さん。子どもとの会話が伊藤さんの楽しみ。

ちと聞きなれ Interview

人との関わりのなかから あったかいものとか、湧いてくる

困っていると周りが助けてくれた

松本 今は、どんな暮らしをしていますか？

伊藤 今は、気軽にここ（デイサービス）へ遊びに来て、お互いに励ましあっているけど。ここは子どもが遊びに来て楽しい。今の子どもって、すでに出来上がったもののがいっぱいあるなって思うんですよ。

松本 伊藤さんは、どんな子ども時代でしたか？

伊藤 山に囲まれた田舎で生まれて、子どもの時は兄弟が多くて下の子のお守りをしてました。親は働くのに忙しくてね。気がついた子が、弱い子を助けるというのは、田舎の風習みたいなものだったわね。

松本 保健師、学校の養護教諭もされていたそうですね。

伊藤 困っている人がいたら、道で歩いている時でも「大丈夫？」って声をかけたくなる。そういうものは持っていたと思います。子どもの頃から、自分が困っていると、友達が助けてくれたしね。男の子も女の子も、不良も助けてくれたわ。

松本 学校の保健室の先生に、びったりです。

伊藤 お腹が痛いとか言って、サボろうとする不良の子どももいてね（笑）。そういう子は、家でも冷たくされているでしょう。心の病っていうのは誰でもあるものだから。人間ってね、厳しさも必要だけど、何でも受け入れてあげて、安心することも大切だから。

人として付き合えばお互いに救われる

松本 ここでは、「お母さん」的存在だそうですね。

伊藤 ここでは、堅苦しい肩書きをださないで、人間として付き合うでしょ。こういう風に生きていく方法があるんだな、というのを思いますね。こうして親しく付き合っているうちに、お互いに救われる部分があるんですよ。学校の保健室でも、ここでもね。

松本 誰しも、自分がここに居ていいんだと思える場所があることで、安心できますものね。

伊藤 私は、家族や親戚に恵まれて、楽しい思い出がいっぱいあります。生まれ合わせも良かったんだろうね。人として、長く付き合えば、いい所を引き出したり、悪い関係になれば、メチャクチャになっちゃう。自分がいい人生を引き継がせてもらったからこそ、いい人生を引き継ぎたいということかしら。

松本 認知症になったことで、周囲の偏見や差別を受けて傷つく人もいます。

伊藤 私の場合、認知症っていう自覚がないから、怖くもないのかも（笑）。まあ、一日一日だね。無らせずに、その人の気持ちを受け入れることで、人との関係って育つと思う。人間って、聞き逃してはいけない貴重なものを、何だかんだ持っているもの。それを感じるとやっぱり、お互いに嬉しいものよ。

町田市ホームページより
https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/old/shiminnokatae/ninchishojoho/ninnchisyo_sassi.files/12-13.pdf

まちだアイ・ステートメントを実現するためには

アイ・ステートメントは、ついでついで、シンプルに実行ですが、それを実現するためには、ついでついでに「家族経営（ファミリー）」が実現される必要があります。今回は、アイ・ステートメントを考えるコアメンバーや経営者とともに、アイ・ステートメントを実現するための家族についても整理しました。おはようございます。よく読んで、アイ・ステートメントを実現するための材料として、参照していただければと思います。

Machida 01
"I" statement

私は、家族に助けを受け、その後の助産を多くについて、主体的に考えられる。

1. 誰もがいつでも助けを受けることができる場と機会がある。
2. 助けとともに本人の意思やこと、心算なことについて相談できる人がいる。
3. 助けとともにその後の生活や暮らしについて本人が意思を持って行動することができる。
4. 助けとともにその後の生活や暮らしについて本人とともに考え、行動する人がいる。

Machida 02
"I" statement

私は、必要な家族の援助を幅広く受け、自分にとっての家族を築く。

1. 家族に関する情報が豊富で、一歩に及んでいる。
2. 家族に関する情報について、丁寧に説明してくれる。
3. どのように暮らしているかの状況を一緒に考える人がいる。
4. 助けとする事柄に対して必要な「サポート（役割）」についてアドバイスを受けられる。
5. 意思のサービスマンがいない場合は、目標とする暮らしを実現する方法を一緒に考えてくれる人がいる。

Machida 03
"I" statement

私は、見えない形で、仲間・サポートの力に支えられていると感じ、望み通りに、有意義な生活を送ることができる。

1. 本人が望む生活の場について、本人が伝えることができる場と機会がある。
2. 本人が望む生活の場は何かを本人とともに考え、行動する人がいる。
3. 今の生活の場が、本人が望む生活の場となるよう協力する人や事業者がいる。
4. 本人の希望にの応えることができる。家族の結束やケアの連携がある。
5. 本人は思い、事情と状況ある程度サポートを受けられる人や事業者がいる。
6. 本人が意思を伝えられなくなった場合でも、本人が望む生活を知り、家族が守れる環境を整える人がいる。

Machida 04
"I" statement

私は、今の生活に満足し、これに生きていく決意がある。

1. 家族に対する評価（自身から見た家族の状況）ができる場がある。
2. 家族間の意思が互いに伝わり意思のすりあわせの機会がある。
3. 意思やアクトに、じっくり話しができる場（家族会など）がある。

Machida 05
"I" statement

私は、家族に自分への気持ちや伝えたいことが、家族に受け入れられている。

1. 家族がいつでも家族について情報を得ることができる場と機会がある。
2. 本人が家族への気持ちを伝えることを伝える人がいる。
3. 本人と家族の気持ちがより良くなるよう、本人や家族とともに考え、行動する人がいる。
4. 本人と家族をつなぐ、具体的なプログラムやサービスがある。



Machida 07
"I" statement

私は、まつりや行事・イベントや仲間づくり、一部の情報を知りながら、自分も関わっていることを感じる。

1. 本人が家族がいつでも仲間になれる場がある。
2. 本人が仲間と一緒の時間を楽しめる場がある。
3. 本人が仲間と自分に関わっていることを話し合える場がある。
4. 本人が関わっているような場を本人とともに考え、行動する人がいる。
5. 本人と仲間をつなぐ、具体的なプログラムやサービスがある。

Machida 06
"I" statement

私の生活は、その役割が果たされ、家族のサポートが適切な支援を受けられる。

1. 介護者のための情報提供や実践的な講座がある。
2. 介護者同士が言葉なく伝えるピアサポートの場がある。
3. 介護者は、一時的に役割を代わってもらえることができ、心をリフレッシュする機会がある。
4. 介護者は自分の仕事を続けるために知識を得る場がある。

Machida 08
"I" statement

私は、趣味や自分の言葉を結ぶことができる。

1. 仲間やコミュニティ・セッションなどで必要なサポートを得ることができる。
2. 趣味や仲間が自分のことを理解している。
3. 利用している施設や施設などのスタッフが、認知症であることを知っていて必要な支援をしている。
4. 以前のようにできなくなっても、新たな楽しみ方や関わり方を考え、実践して行く。
5. 趣味や仲間を通じて、本人や地域の人の交流が広がっている。

07 まちだアイ・ステートメント



「私は、素でいられる居場所
と仲間を持っており、一緒の
時間を楽しんだり、自分が
困っていることを話せる。」

子どもたちと交流



子どもたちと交流





Those who care are
also cared



By the way, this dog is also a member



駄菓子屋
↓
お手伝い



誰かの
何かの
役に立ちたい



hop & beer



100BLG Inc.

“あきらめ”からの回復



“Friends”
person concerned, peers



素になれる場所。



② BLG 町田の活動から

100BLG Inc.

町田の1日（例）

AM

- ・ 09：30 BLG到着
- ・ 10：00 朝のミーティング
 - ①HONDA洗車
 - ②コミュニティ情報誌ポスティング
 - ③買い物
 - ④調理、その他
- ・ 10：30 活動スタート
- ・ 11：30 活動終了
- ・ 11：45 ランチタイム
 - ①外食
 - ②カラオケランチ
 - ③お弁当

PM

- ・ 13：00 午後のミーティング
 - ①こどもの国ベンチ清掃
 - ②野菜の配達
 - ③散策
 - ④事業所の雑務
- ・ 13：30 活動スタート
- ・ 15：30 ティータイム
- ・ 16：00 本日の振り返り
 - ①午前／午後の活動
 - ②昼食
 - ③1日を通じてどうだったか
- ・ 16：30 BLG出発



メンバーさんの声をカタチに、
それがたまたま
HONDAの洗車だった。

作業工程の 分解

(for example)
洗車

バケツを取りに行く

専用雑巾をバケツに入れる

足台を取りに行く

対象車両のワイパーを上げる

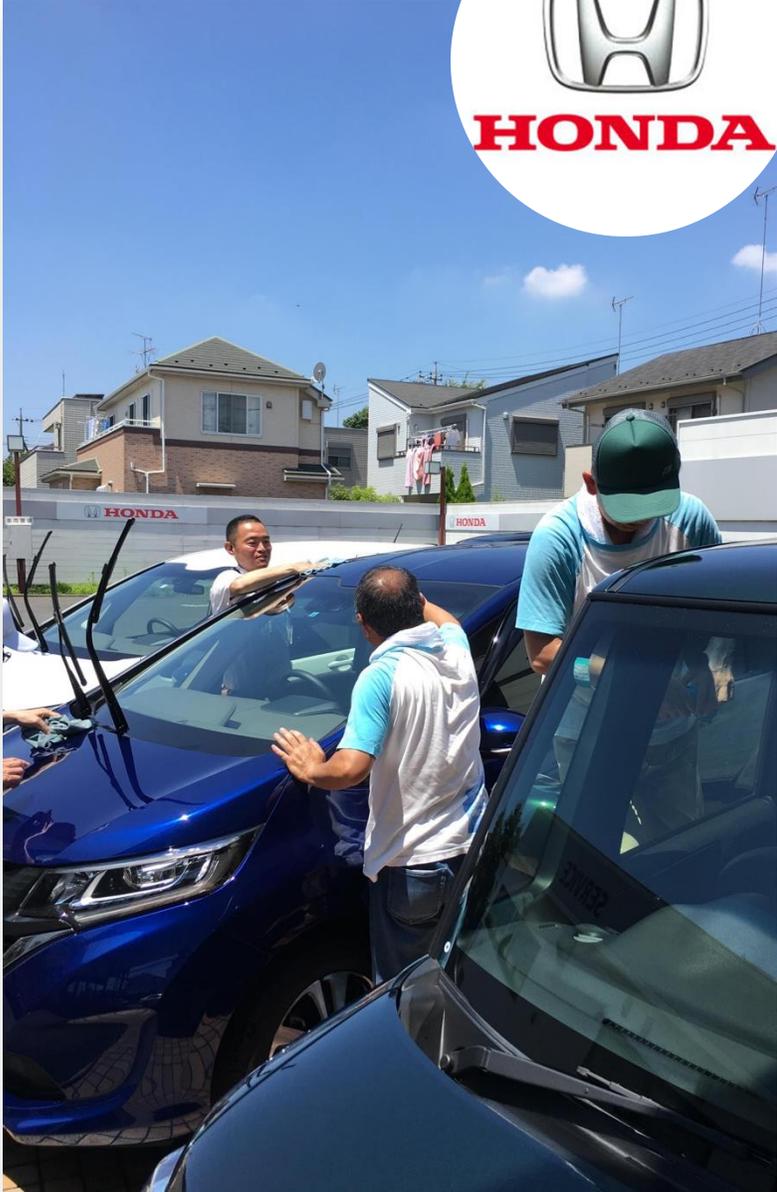
ホースを伸ばす

蛇口を捻る

歩行者に注意しながら車両に水をかける

・・・ and more

洗車完了チェックをして作業ノートに記入



家族と共有できる使いやすい月間カレンダー



- マス目の大きな月間カレンダーで、家族で予定が書き込めるとよい。
自動で終わった日には×が表示されて、外出中も参照できると良い。



手元で書いたものが、
反映されて、みんなのスマホで参照できる！
音声でも、入力できる！とかとか...

2017 1月 平成29年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
1 ×	2 ×	3 ×	4 ×	5	6	7
8	9 タカシは、 DAY'S BLG	10	11 アイコは、 パート	12	13	14
15	16 タカシは、 DAY'S BLG	17	18 アイコは、 パート	19	20	21
22	23 タカシは、 DAY'S BLG	24	25	26 アイコは、 パート	27	28
29	30 タカシは、 DAY'S BLG	31	1	2	3	4

※この画像はインターネットからコピー

ショッパー



11

2016年 3月11日

ショッパー

地域新聞

新田-相模原-409号

株式会社 ショッパー社
〒242-0292 相模原市中央区大宮1-1-1
TEL 042-253-2311 FAX 042-253-2311

世界インレイアート〜大衆展
タイもさまざま
13周年! ありがとうキャンペーン

災害から命を守るシエルター

お祭り 11.12.13. 200円の金券消費

読むことと健康寿命の関係

ライオンインプラントセンター 町田ビル2階
LION IMPLANT CENTER MACUDA
0412-720-8811

ライオンインプラントセンター 相模原ビル2階
LION IMPLANT CENTER SAIGOHARA
046-232-8811

Canon



100BLG Inc.

こどもの国
ベンチ乾拭き



ANN
NEWS



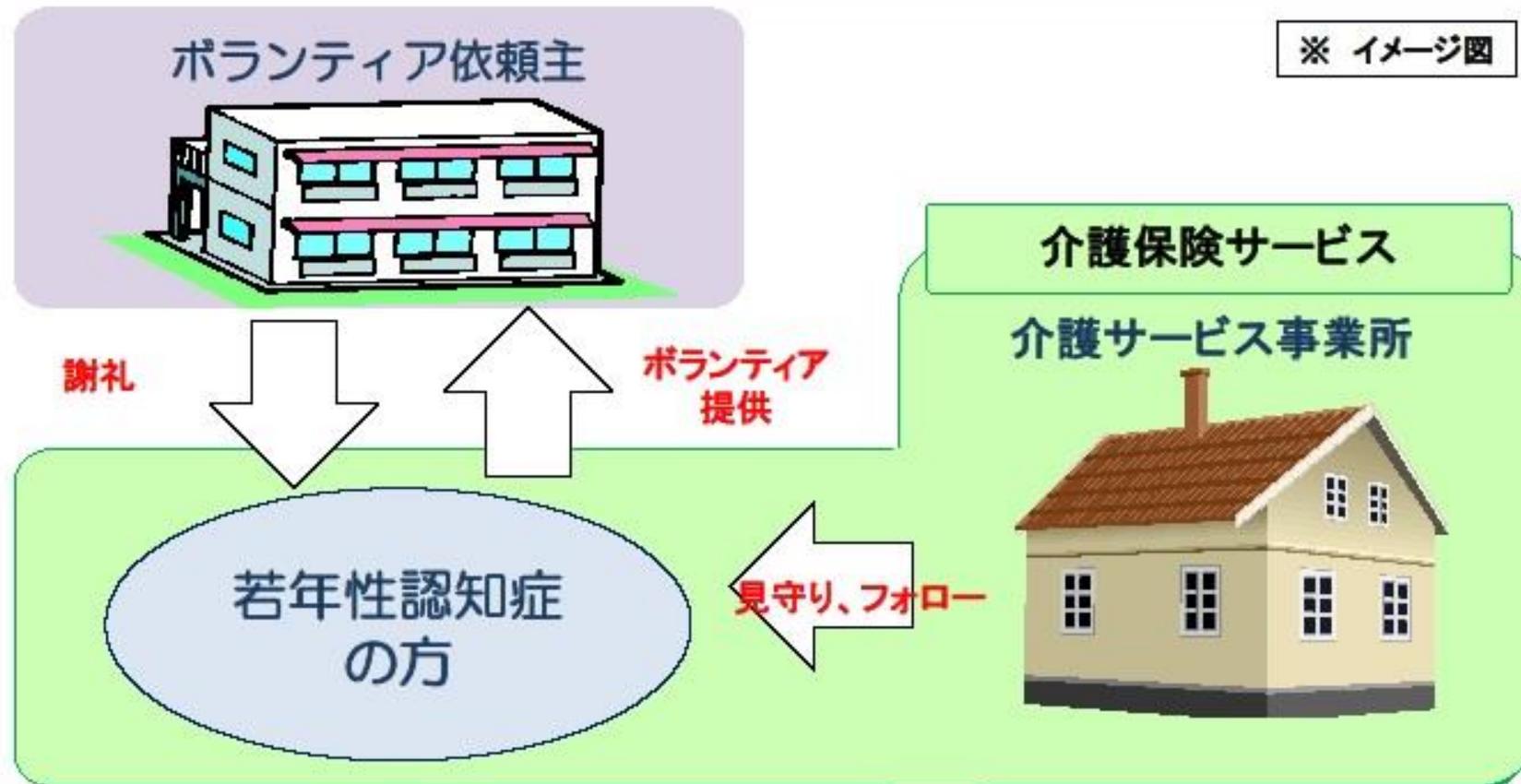
Picture-story show Story telling



ボランティア活動の謝礼を受け取れる例

※ 以下の要件を満たす場合ボランティア活動の謝礼を受領しても差し支えないと判断される

- ボランティアの謝礼が労働基準法に規定する賃金に該当しない
- 介護サービス事業所は、若年性認知症の方がボランティア活動を遂行するための見守りやフォローなどを行う
- ボランティア活動の謝礼を、介護サービス事業所が受領することは介護報酬との関係において適切でない



出典：平成23年4月15日付事務連絡「若年性認知症施策の推進について」

各都道府県介護保険担当課（室）
各指定都市、中核市介護保険担当課（室） 御中
← 厚生労働省 認知症施策・地域介護推進課

介護保険最新情報

今回の内容

若年性認知症の方を中心とした介護サービス事業所における地域での社会参加活動の実施について（再周知）

計 14 枚（本紙を除く）

Vol.1302

令和6年8月8日

厚生労働省老健局

認知症施策・地域介護推進課、

老人保健課、高齢者支援課

貴関係諸団体に速やかに送信いたしますよう
よろしく願いいたします。

連絡先 TEL：03-5253-1111(内線 3983)
FAX：03-3503-7894

事務連絡
令和6年8月8日

都道府県
各指定都市 介護保険担当部（局） 御中
中核市

厚生労働省老健局 認知症施策・地域介護推進課
老人保健課
高齢者支援課

若年性認知症の方を中心とした介護サービス事業所における
地域での社会参加活動の実施について（再周知）

介護保険制度の円滑な運営につきまして、平素よりご理解とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

認知症対応型通所介護等の介護サービス事業所が、若年性認知症の利用者の方に対し社会参加型のメニューを実施する場合の取扱いについては、「若年性認知症施策の推進について」（平成23年4月15日付け老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室事務連絡）において、留意点をお示ししているところです。（別添1参照）

また、この事務連絡を踏まえ、「若年性認知症の方を対象とした介護サービス事業所における地域での社会参加活動の実施について」（平成30年7月27日付け老健局総務課認知症施策推進室・振興課・老人保健課事務連絡。以下「平成30年事務連絡」という。）において、介護サービス事業所が社会参加活動等を実施する場合の留意点等をお示ししているところです。（別添2参照）

これらの社会活動等については、認知症の人及び家族等が地域において安心して日常生活を営むことができるという、共生社会の実現を推進するための認知症基本法（令和5年法律第65号）の基本理念に照らしても重要な取組であることから、改めて、管内市町村、関係介護サービス事業者等への周知のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、平成30年事務連絡において、当該事務連絡の対象範囲として、「現在、取組が進んでいる認知症対応型通所介護を含む通所系サービス、小規模多機能型居宅介護等」としていたところですが、これは、当時、これらの事業所において、特に社会参加活動の取組が進んでいたことを踏まえて例示を行っているものであり、居住系・施設系サービスにおける実施を妨げるものではない旨、あわせて申し添えます。

（別添1）平成23年事務連絡

（別添2）平成30年事務連絡

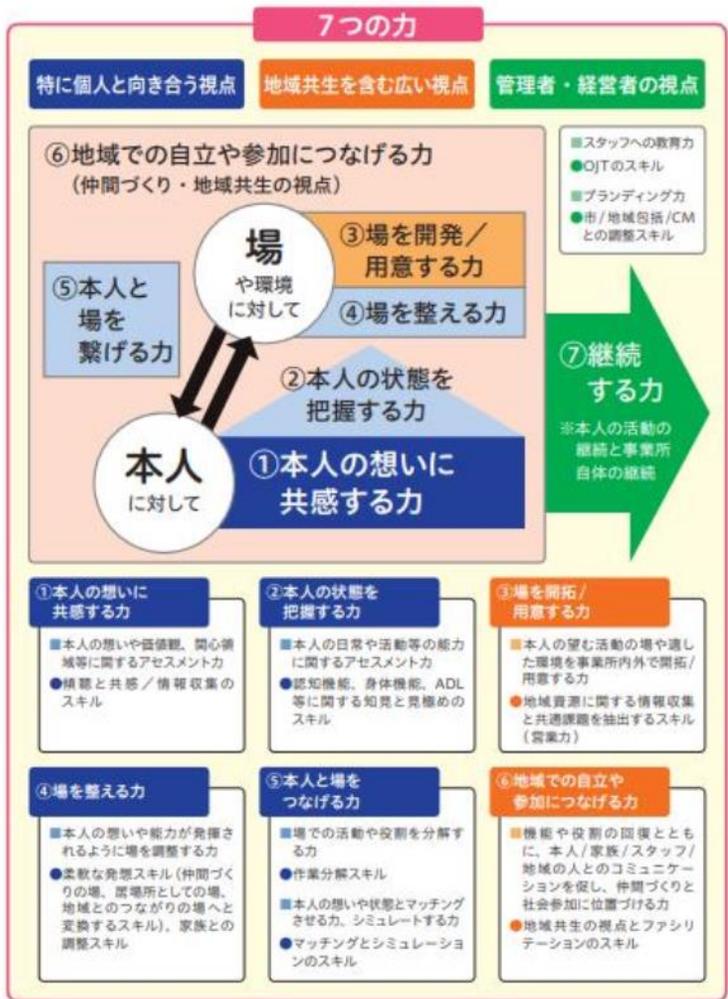
<https://www.mhlw.go.jp/>

100BLG Inc.

社会参加活動を成功させるためには、どのような力が必要になるのでしょうか。今回の調査では、こうした活動に取り組むキーパーソンの動きに注目し、共通の要素を整理しました。

図のような7つの力が必要となります。こうしたことを一人で抱うのが難しいケースも少なくないと思いますが、これらはチームで分担することもできます。

社会参加活動の事例を参考に、活動を始めても、どうもうまく行かないという場合には、前提となるような要素が不足している可能性があります。自分たちは、いま、どのようなことができていて、どのようなことが課題になっているのか、要素ごとに検討してみることで、解決の糸口が見つかるかもしれません。



活動がうまくいくために、必要な7つの力



「やりたい」を実現するまでの道のり

介護事業所の中には、「社会参加活動」と言われても、何をすればいいのかイメージできないところも少なくないと思います。全国の事例を通じて、利用者の参加・はたらくの実現・継続には、どのような道のりがあるのかをまとめました。

- 1 そもそも、何をすればいいのか?**

ひと口に社会参加といっても、本人の想いや希望、要介護度も異なり、有償ボランティアから家庭内での役割や買い物等しごとのタイプも様々です。活動内容ありきではなく、本人との話の中から、想いと「やりたい」を実現するための活動を一緒に考えていきます。(P.09, P.16, P.17, P.18)
- 2 地域でしごとや役割を見つけるには?**

利用者が得意なことやできることを起点に、地域の中でそれができる場所や仕事を発注してくれるところを探します。一般企業や商店、自治会などに尋ねてみることもできますし、関連法人などがあれば、そこで探すこともできます。最初は無償でスタートし、信頼関係を築く中で、謝礼を支払う有償ボランティアに移行するケースもあります。(P.07, P.13参照)
- 3 外に出て、人員は大丈夫?**

従来の運営方法のまま、それに加えて、外に出る活動をする介護スタッフが足りなくなるという懸念もあります。しかし、実際に活動をしている事業所では、室内でも、利用者にできることを積極的にしてもらうことで、こうした問題は起こっていません。社会参加を進めていくには、「してあげる」型の運営体制から脱却する必要があります。(P.07, P.11参照)
- 4 謝礼が発生しても大丈夫?**

介護保険サービスの利用者が、社会参加活動を通じて、有償ボランティアとして謝礼をもらうことは認められています。ただ、現段階ではそれほど多く事例がある訳ではないので、地域によっては前例がなく、消極的な解釈がなされる場合もあります。金銭などを発生させず、地域通貨のようなポイント制にする方法をとっているところもあります。(P.11, P.13参照)
- 5 家族・ケアマネ・保険者はどう思うだろうか?**

社会参加活動は、自立支援という介護保険の本来の目的に沿ったもので、自治体の中には、積極的に推奨しようというところもあります。ただ、活動内容によっては貴重な判断がなされる場合もあります。活動の目的や他の地域の事例なども伝え、丁寧にコミュニケーションをとることが大切になります。(P.19, P.21参照)
- 6 継続発展させていくには?**

社会参加活動は、利用者の意欲や活動性が増すきっかけになります。介護サービスの利用時以外の、社会活動や就労などにつながるケースもあります。活動をより発展させていくために、就労継続支援との連携や、一般の企業活動の中に位置付ける動きもあります。(P.09, P.13, P.15参照)



展開するための要点

主体性

・誰のための何のための活動かを大切にす

■ メンバーが“じぶんたちの活動”と思えるように、**企画段階**から話し合う

関係性

・呼びかけを行う事業所（人）が企業との信頼関係を構築する

■ 運営推進会議や日頃から通うスーパー等、職員が関係する企業から展開する

先方の立場に立つ

・一方的な要求だけではなく、企業側の立場に立ち交渉を行う

■ 業務内容を一定理解する。働き方の提案（時給→委託業務）

34

場所（距離）

・出来る限り、施設から近距離の企業、働き場所を模索する

■ 施設が地域に溶け込む。認知症フレンドリーへの展開

地域全体の価値

・メンバーの自己実現のために！だけではなく、将来的なわが町構想

■ 企業の人ではなく、生活者としての価値を訴求する

出典：

一般社団法人人とまちづくり研究所
<https://hitomachi-lab.com/official/wp-content/themes/hitomachi-lab/pdf/pdf09.pdf>

workshop

➤ 共生社会のイメージを共有

➤ 自分たちができること

➤ 方法（実現するためには何ができるか？）

わたしたちの活動シート

～本人の想いをカタチに！身近なことからチャレンジ～

本人の想い（目の前の人の言葉をありのままに）

だから

わたしたちが目指す姿（～と一緒に目指したい）

そのために

アクションのアイデア（いいなと思ったこと・試す・検討する・誰かの力を借りるとできそうなこと・仲間になって欲しい人）

事業所名（ _____ ）

チームメンバー（ _____ ）

トライ&エラーで、まずはやってみよう！

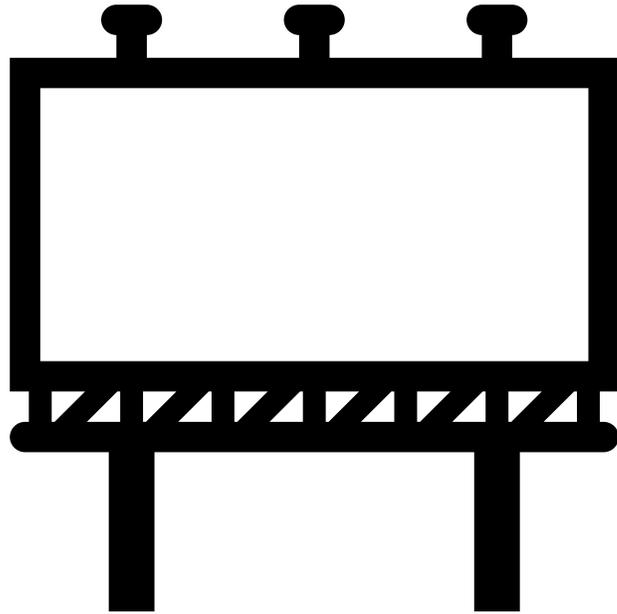
具体的なチャレンジ内容

（いつ・どこで・誰が・何を・どのように・いつまでに）

評価のポイント

（どのように効果を確認するか）





各グループ発表！

- 「できました」 写真を大和市へ→参加者へ伝える目的
- 9グループ=9枚の写真展 (DAY 2)



HONDA



エーザイ株式会社 『e-65.net』 より
<https://sodan.e-65.net/kaigo/movie/>



How did you connect with the company?



Approach to
companies



commercial
enterprise



Understanding the
market



Pay for
performance



PR



Business

Sustainable Development Goals



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

1 NO
POVERTY



2 ZERO
HUNGER



3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



4 QUALITY
EDUCATION



5 GENDER
EQUALITY



6 CLEAN WATER
AND SANITATION



7 AFFORDABLE AND
CLEAN ENERGY



8 DECENT WORK AND
ECONOMIC GROWTH



9 INDUSTRY, INNOVATION
AND INFRASTRUCTURE



10 REDUCED
INEQUALITIES



11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES



12 RESPONSIBLE
CONSUMPTION
AND PRODUCTION



13 CLIMATE
ACTION



14 LIFE
BELOW WATER



15 LIFE
ON LAND



16 PEACE, JUSTICE
AND STRONG
INSTITUTIONS



17 PARTNERSHIPS
FOR THE GOALS



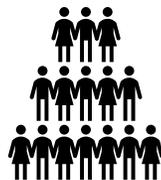
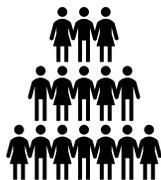
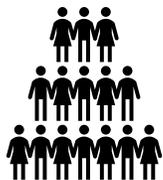


新たな購入の選択肢



【仮定】

認知症当事者 1 0 0 0 万人 
+
家族 1 0 0 0 万人 
+
何らかに関わりを持っている人（医療、介護、福祉の専門職や薬局、
行政、警察官、研究職、その他） 1 0 0 0 万人 
↓
計 3 0 0 0 万人



3 0 0 0 万人の消費者層

2019年

新規登録車台数 3,284,870

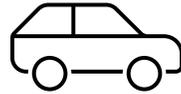
(一財) 日本自動車販売協会連合会HPより
<http://www.jada.or.jp/data/year/y-r-hanbai/y-r-all/>

約 330 万台

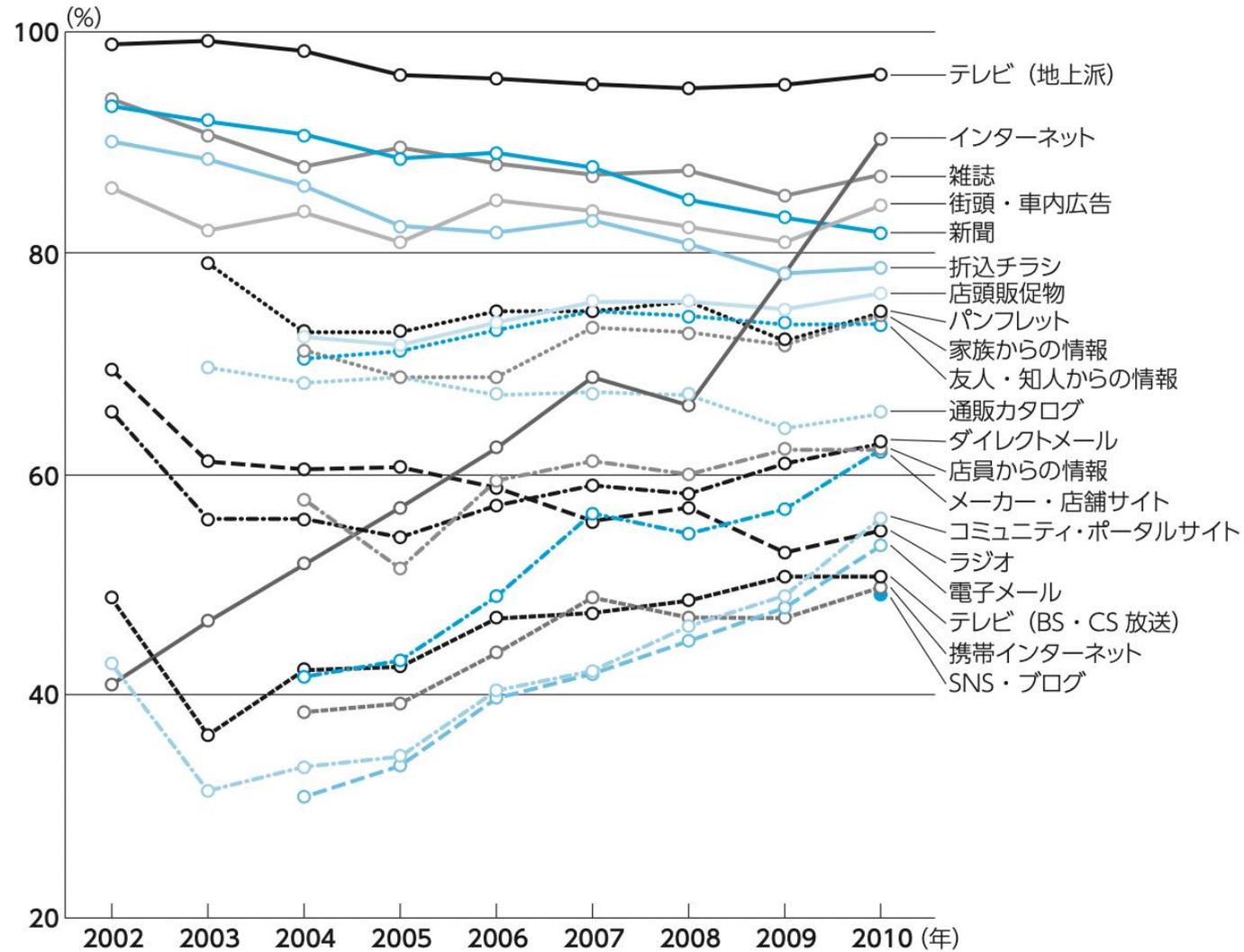


TOYOTA

ISUZU



パイの奪い合い



出所：大日本印刷(株)「メディアバリュー調査」

パイの奪い合い



3 0 0 0 万人の消費者層
÷
1%が動く
||
3 0 万台 + @

“企業の活動を応援したい”



横浜信用金庫

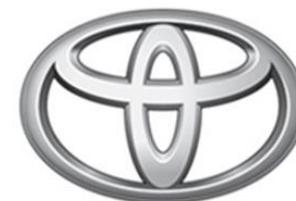
KOKUYO

FUJITSU

Canon



HONDA



TOYOTA



あそびのなかに、未来がある。

こどもの国

KODOMO NO KUNI

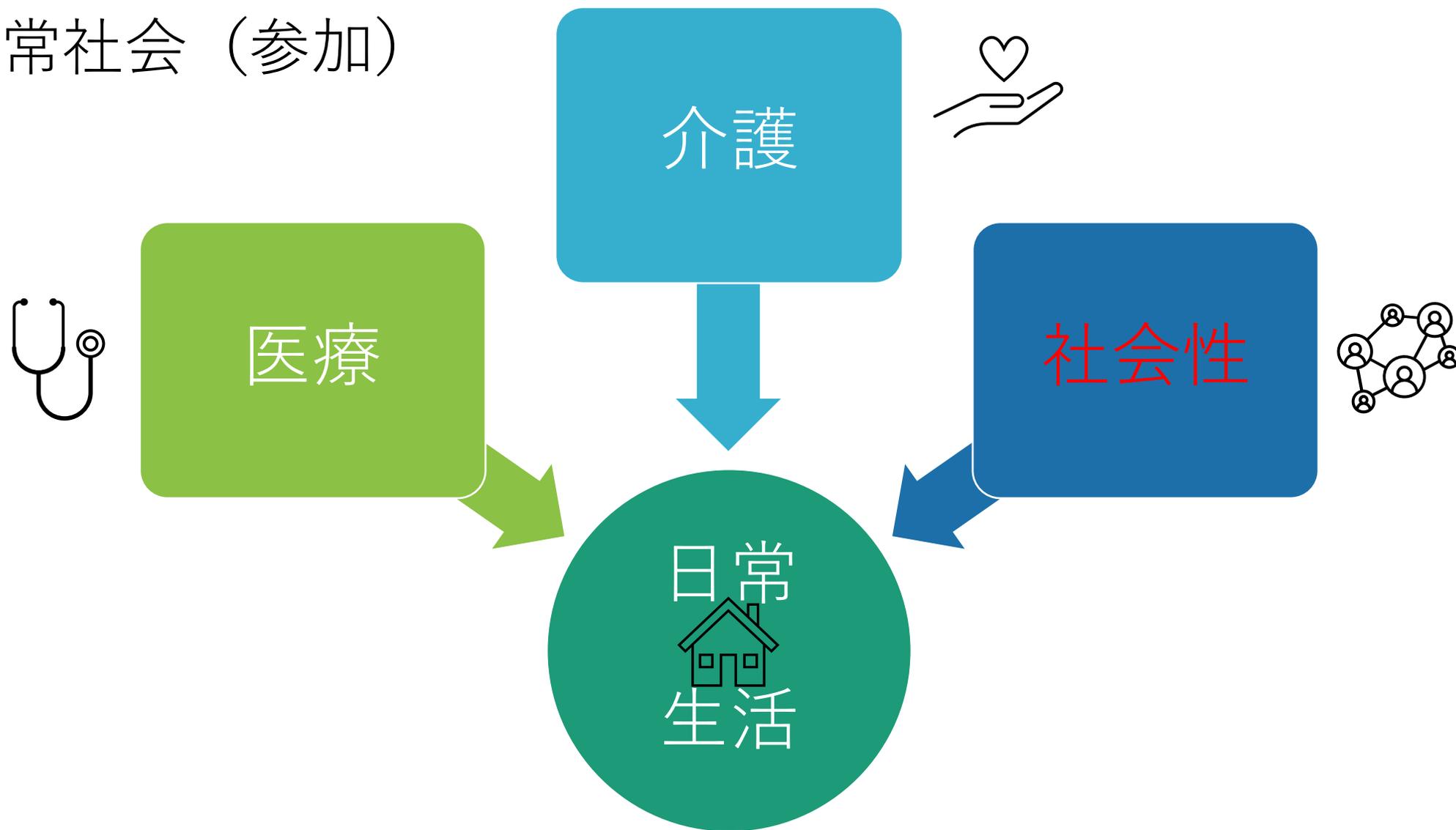


ハブ機能

③ 社会参加

100BLG Inc.

日常社会（参加）



今後、超高齢社会において、**社会的つながり**は健康で文化的な生活を送る上で必要不可欠な**要因**であり、つまりは年齢等関係なく**社会参加**が求められる。

それでも・・・

認知症と診断された瞬間に社会と分断される。

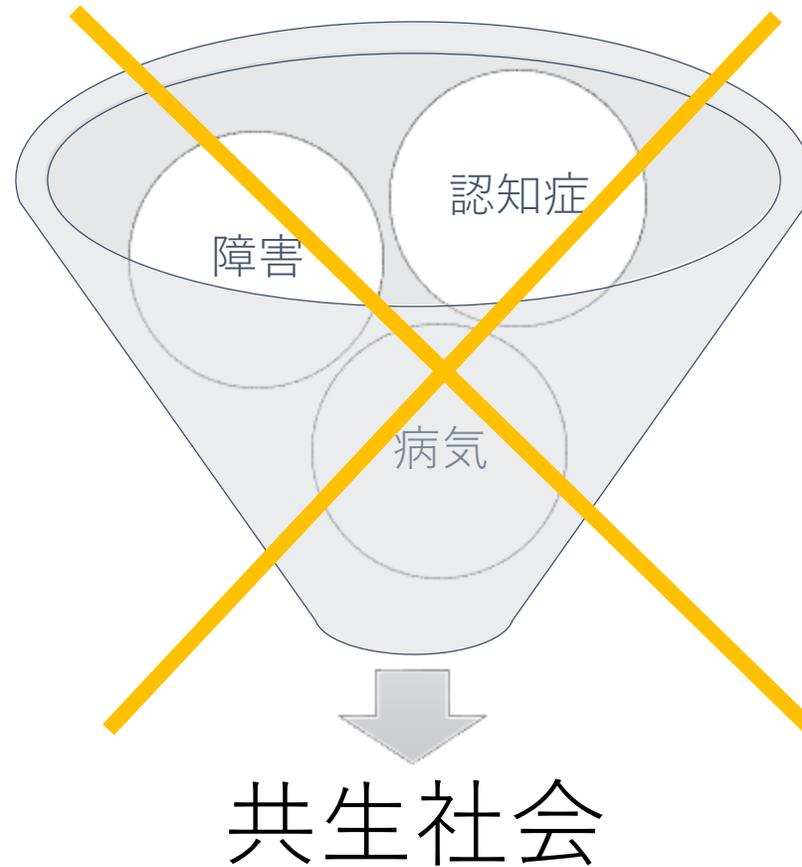
今まで交流のあった友人や隣人更には趣味サークルから「あなたは来ないで」と言われてしまう。何故なら、認知症だから。

当たり前を当たり前に、常識を疑え。

④ 共生（共創）社会

100BLG Inc.

共生社会のイメージ



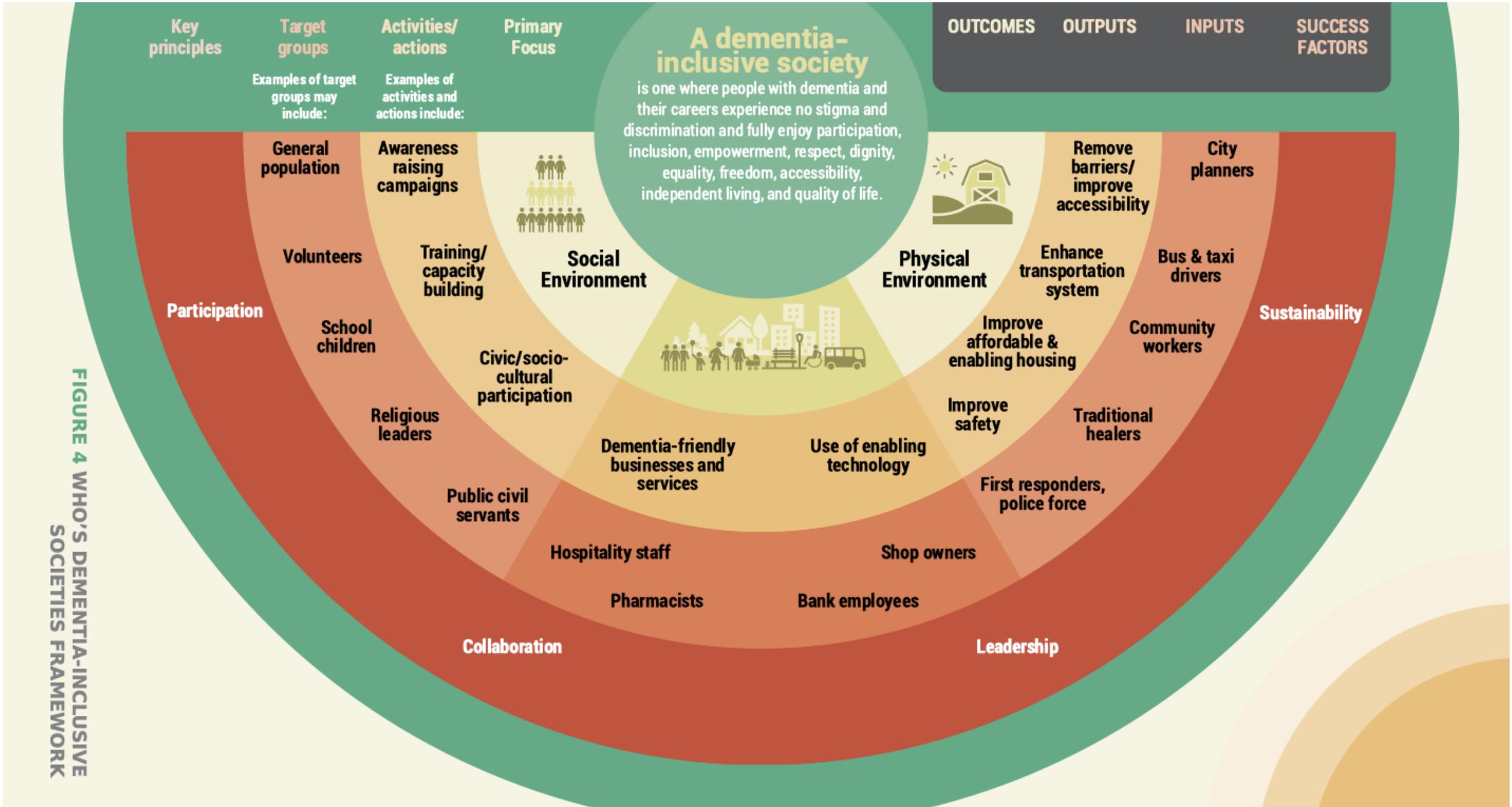
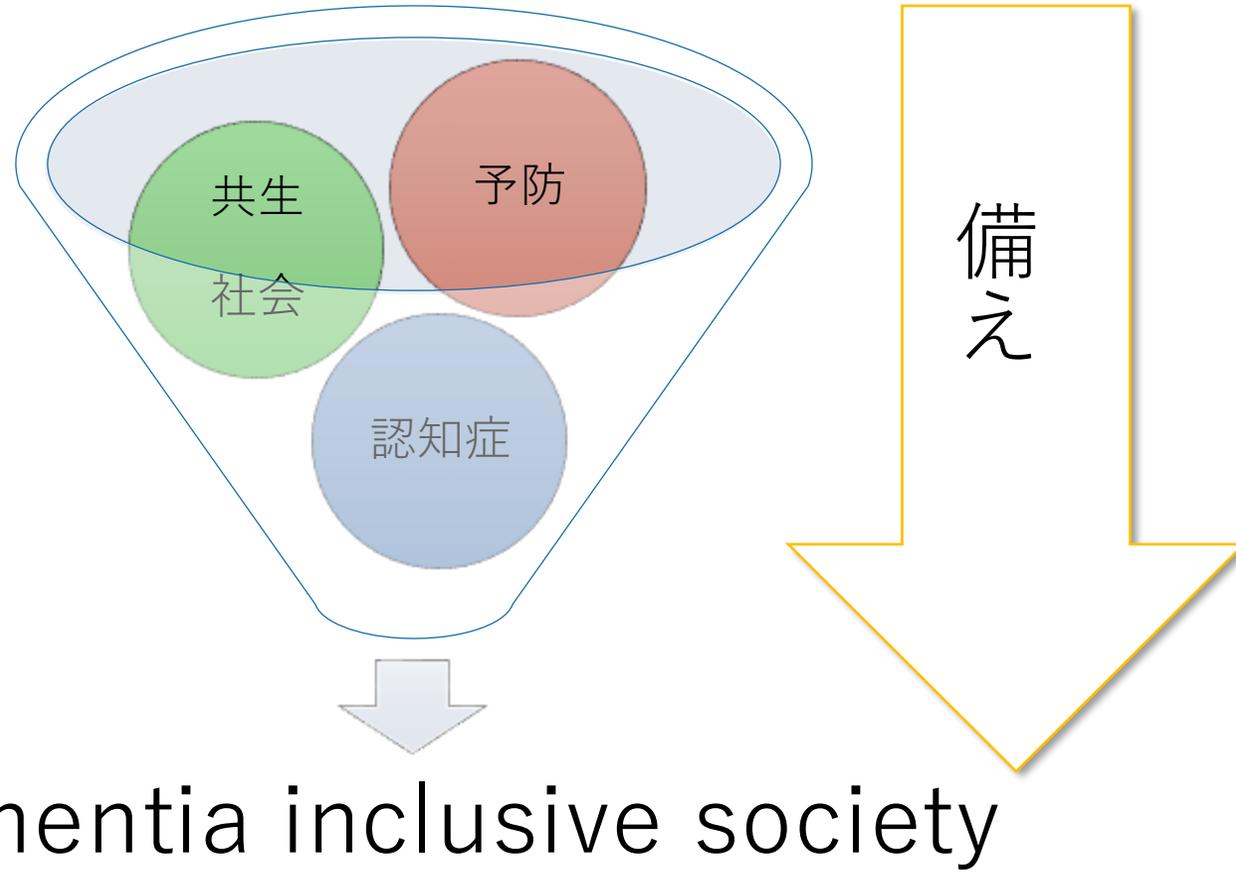


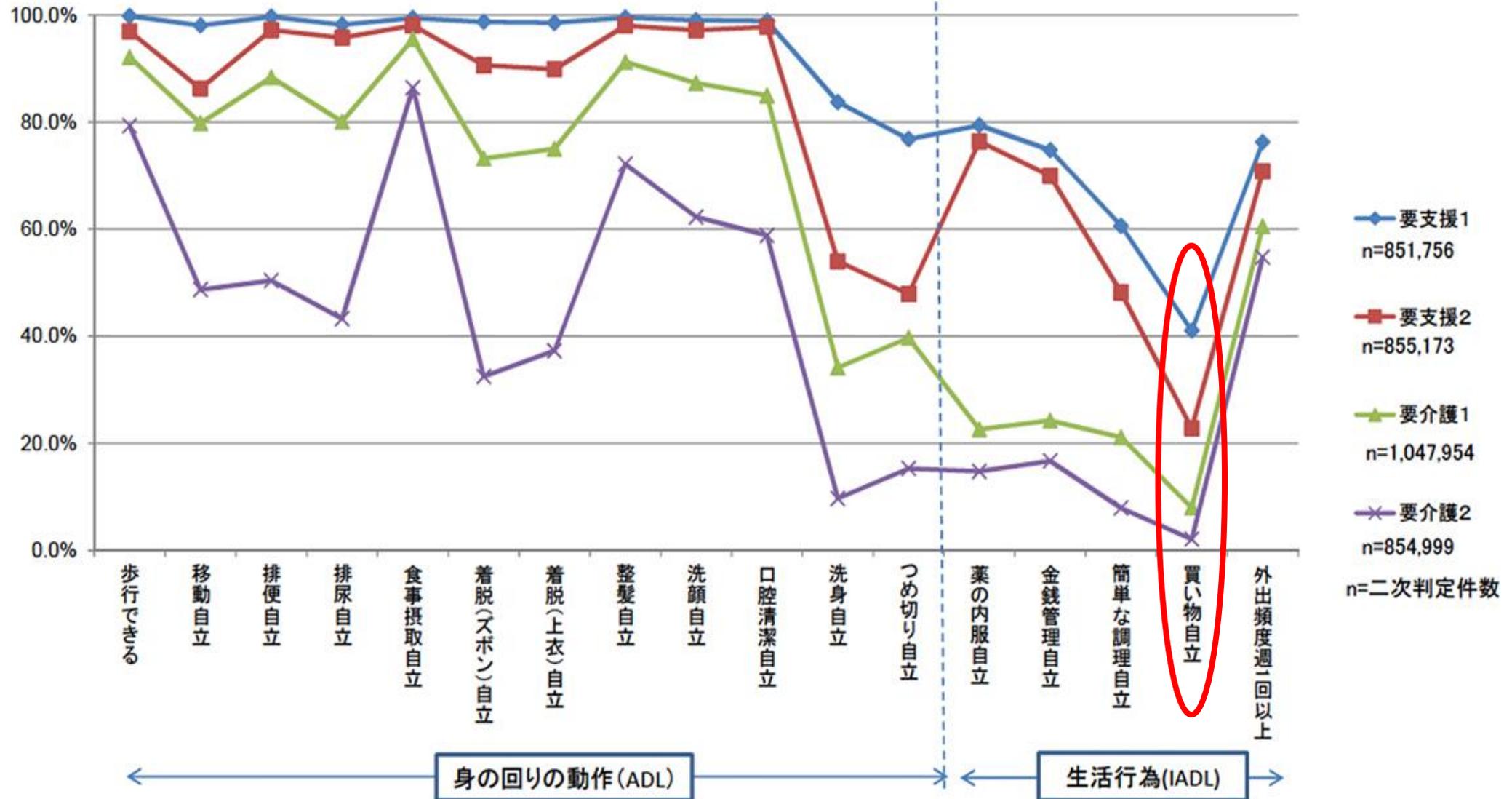
FIGURE 4 WHO'S DEMENTIA-INCLUSIVE SOCIETIES FRAMEWORK

共生社会のイメージ



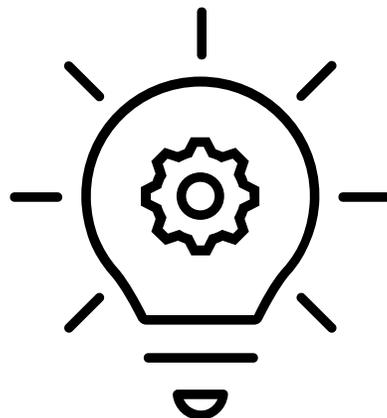
環境と人をつなぐ

要支援者のほとんどは、身の回りの動作は自立しているが、買い物など生活行為の一部がしづらくなっている。



※1 「歩行できる」には、「何かにつかまればできる」を含む。

※2 平成23年度要介護認定における認定調査結果(出典:認定支援ネットワーク(平成24年2月15日集計時点))



happyの共有

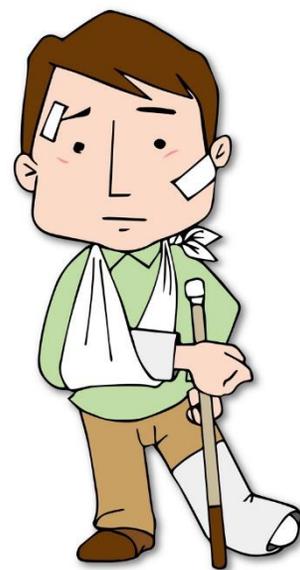
右) イトーヨーカドーほぼ全店

左) 福井県民生協ハーツふくお

あなたが . . .



あなたが . . .



つまり・・・

認知症と共に生きる ことは前提でもあり、誰もがなる可能性

が示唆されている現在、認知症の人を変えるのではなく、 社会や私たちが

が変わる ことで、 誰もが生きやすい 社会

へとシフトチェンジしていかなければならない。



オレンジイノベーション・プロジェクト

～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会～

当事者参画型開発の取組み



当事者

- ✓ 社会参画の機会や自己効力感の向上の一つとなる
- ✓ 欲しいものが入手しやすくなる

企業

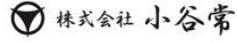
- ✓ 潜在的な利用者・顧客のニーズを把握して開発ができる

当事者の真のニーズに合致する
質の高いソリューションの創出

「共生社会」実現への貢献

オレンジノベーション・プロジェクト 実践企業・団体

画像をクリックで各企業・団体の取組概要をご確認いただけます

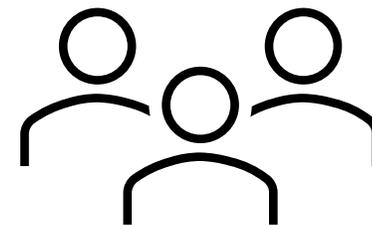


当事者参画型開発の手引き

日本認知症官民協議会

認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ

全産業が取り組めるよう手引きも作成



目次

はじめに	https://ninchisho-kanmin.or.jp/dcms_media/other/guide_participation.pdf
当事者参画型開発の意義	
認知症についての基礎知識	
当事者参画型開発をはじめに当たってのキホン	
一般的な開発プロセスと当事者参画型開発のプロセス	
認知症の人に参画してもらう手法	
当事者参画型開発のプロセス1：認知症の人と出会う	
当事者参画型開発のプロセス2：企画の目的・内容を伝える	
当事者参画型開発のプロセス3：参画してもらう際の事前準備	
当事者参画型開発のプロセス4：当事者参画を実践する	
4-1 コミュニケーションの工夫	
4-2 空間づくりの工夫	
4-3 資料づくりの工夫	
4-4 オンライン開催の工夫	
当事者参画型開発のプロセス5：フィードバック	
認知症の人の視点や暮らしの様子を学ぶための参考情報	

⑤ HOME BLG

100BLG Inc.

HOME BLG プロジェクト

FAMRIDGE
Family & Bridge

100
BLG

YCD! share house



HomeBLG!

私も「認知症」と言う病を得てから、
人生観が変わりました。

それは、決して自分を捨て去るといふ事では無い事を
学びました！

「友」と共に生き、「友」と共に楽しむ。

「友」と共に苦しみ、「友ら」と共に語ることを

特に(妻と)この様な人生を送る事に

喜びと光る人生の様な気がするのです！

決してあきらめないうまくない！

あきらめる事は、何も生み出す事は無いと信じます！

いつか、又語り合える時間が有れば...ぜひ！

素晴らしい事ではありませんか!?

池田英樹 拝！

9A5B. 読後録 (記)



You



認知症のある人もない人も、一緒に暮らす

「HOME BLG」は、独り暮らしで認知症のある方が地域で暮らし続けていくための1つのアイデアです。

どうしたら暮らしやすい地域が作れるのかを、認知症のある人もない人も、一緒になって考えることができたなら素敵だと思いませんか。排除するのではなく、地域で一緒に生きるということ「みんなが住み続けられる仕組み」です。



Can



できることを分かち合う、私にも“できる”がある

1人ではできないことでも、誰かに助けてもらえばできることがあります。
私たちは知らず知らずのうちに助け合いながら生活しています。
できないことを挙げればきりがありませんから、できることに着目してみませんか。「できるが集まるとできないが無くなる」かもしれません。





できることを活かして、仕事にする

社会と繋がり続ける1つの手段として「はたらく」をします。

みんなのできることを活かした活動「はたらく」って楽しいと思いませんか。

ただのシェアハウスではありません。「仕事もできる」シェアハウスです。





これからの社会をつくっていきましょう！

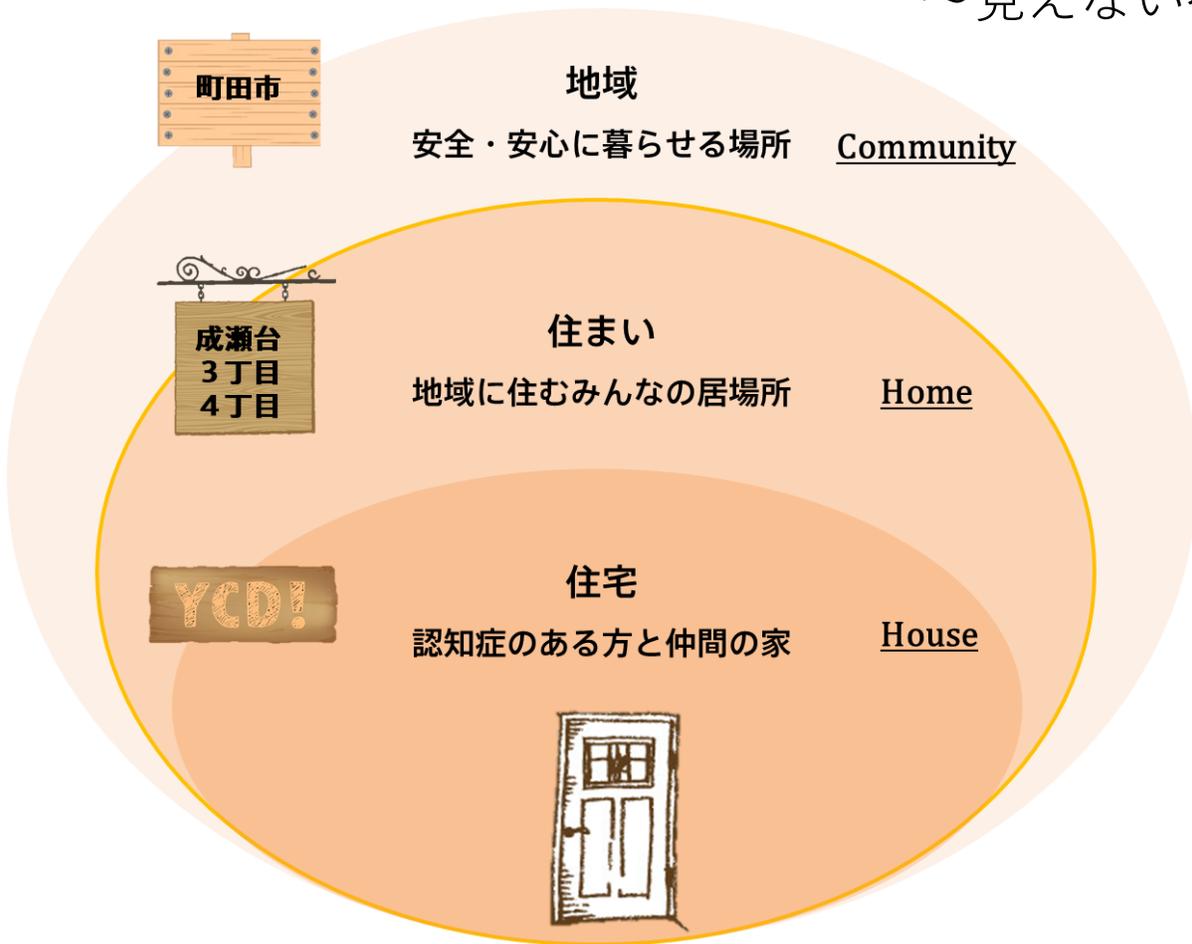
正解がないからこそみんなで作ろうと思います。

認知症があってもなくても、年老いても幼くても、誰もがいきいきと生活できる地域社会があったらいいと思いませんか。

「独り暮らしで認知症のある方が地域で暮らし続けていく」ための取り組みをひとつのきっかけにして、明るい未来をつくるために動きだします。



～見えない不安を 見える希望に変える～



PROJECT

HomeBLG!

PROJECT



成瀬台のまちと暮らしと未来を考える

成瀬台を舞台
にした映画

ホームカミング 上映会

「ホームカミング」公開から6年！

- ・何が変わったのか
- ・何が変わらなかったのか
- ・大切にしているもの
- ・これからの成瀬台に必要なこと

参加費
無料

【参加申込み不要】
【途中参加・退出自由】

一緒に考えましょう！

2017年 7月9日(日)

13:30 ~ 17:30

会場：ケアセンター成瀬

地下1階ホール

(町田市成瀬台3丁目241)



【スケジュール】

13:30 ~ 13:40 飯島監督ごあいさつ

13:40 ~ 15:20 上映

休憩

15:40 ~ 17:30 Café ミーティング

「成瀬台のまちと暮らしと未来を考える」



飯島監督来場！

「ホームカミング」の映画監督・飯島敏宏さんは成瀬台にお住まいです。監督の作品とまちへの思いもうかがいながら、成瀬台のまちと暮らしと未来について一緒に考えましょう！

主催(問い合わせ先)：南第3高齢者支援センター ・ NPO町田市つながりの開 (DAYS BLG!)
(Tel. 042-720-3801) (Tel. 042-860-6469)

協力：ラジオ体操会、ケアセンター成瀬、株式会社ファミリッジ



HomeBLG! PROJECT

空家の利活用に向けたマッチング事業及び空家の改修に対する助成を開始
します

更新日: 2017年7月15日

事業の概要

空家対策を推進するために、空家の所有者と一戸建ての空家を地域活性化施設として利用したい方をつなぎ合わせます。また、対象案件のうち、一定の要件を満たす空家を地域活性化施設として改修しようとする場合に、当該空家を改修するために要する費用の一部を助成します。

対象者

町田市内に一戸建ての空家を所有している方及び町田市内の一戸建ての空家を地域活性化施設として利用したい方

町田市空家^{ゼロ}計画 概要版 —備えあれば空家なし—

町田市空家^{ゼロ}計画策定の背景と目的

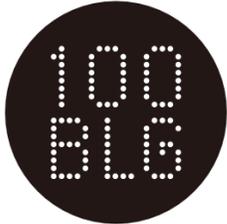
全国的に空家が増加するなか、適切な管理が行われていない空家等が防災、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼし、生命・身体・財産の保護、生活環境の保全、空家等の活用のための対応が必要となったことから、空家等対策の推進に関する特別措置法（以下「空家等対策特措法」という。）が制定（2015年5月26日全面施行）され、「特定空家等」（空家等対策特措法第2条第2項に定義）への代執行を見据えた対応が可能となりました。

町田市においても、空家等に関する対策（以下「空家対策」という。）を推進するために、「町田市空家等の発生の予防、適切な管理及び活用の促進に関する条例（以下「市空家条例」という。）」を制定（2015年12月28日施行）し、次の基本理念を定め、空家対策に取り組んでいます。





Dementia Friendly Communities



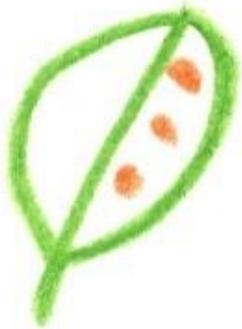
[BLG町田](#)



[100BLG](#)



[BLG corporate](#)



⑥ 情報share

100BLG Inc.

認知症とともに あたりまえに 生きていく

支援する、
されるという
立場を超えた
9人の実践

立ち読みは
こちらから



矢吹知之、丹野智文、石原哲郎 = 編著

藤田和子、大塚智丈、鬼頭史樹、
猿渡進平、前田隆行、六車由実 = 著

● A5判・310頁 ● 定価 2,420円 (本体 2,200円 + 税10%)

● 2021年6月発行 ISBN 978-4-8058-8333-4

認知症ケアにかかわる すべての専門職に向けて

「すべての人が認知症とともにあたりまえに生きる社会」に向け、私たちは何ができるのか。支援する側、される側という立場を超えた実践を続ける、認知症の本人、医師、支援者が、それぞれの挑戦や葛藤をふり返り、「これからの認知症ケア」のあり方を問いかけます。

あたり前で大切な気づきを得ることができる一冊!

主要目次

- I 認知症とともに生きる ー本人の声を聴く
 - 第1章 「認知症でもできること」から「認知症だからできること」へ
 - 第2章 認知症になっても暮らしやすい社会をつくる
- II 認知症の人の心を理解する ー医師として
 - 第3章 初診時から始まる認知症の人の心への支援
 - 第4章 認知症のある人とのかかわりから学んだこと
- III 認知症の人とともに暮らしをつくる ー福祉専門職として
 - 第5章 認知症の本人とつくる地域・社会 ーfor から withへ
 - 第6章 だれのため、何のための私たちなのか
 - 第7章 認知症のある人の仲間づくり、役割づくりが社会を変える
 - 第8章 「ともにある」ということへの想像力 ー「意思決定支援」を超えて
- 終章 「認知症ケア」という前に考えたいこと ー一人の「間」にある学びと実践



認知症 plus 地域共生社会

つながり支え合うまちづくりのために
私たちができること

近藤尚己・五十嵐 歩 編



日本看護協会出版会

認知症 plus
シリーズ 第17弾



認知症施策推進のキーワード

「**地域共生社会**」の実現のために、
具体的に何を目指し、何をすればよいのか。

- 多様な主体が、制度・分野の縦割り、支え手・受け手の関係を超えてつながり、認知症のある人が暮らしやすいまちをつくるには？
- 国内外の動向、医療・介護・福祉などの専門職、当事者・家族らによる取り組み事例を多数紹介しつつ、〈概念〉と〈実践〉の両面から、この問いに挑みます。

認知症 plus 地域共生社会 つながり支え合うまちづくりのために私たちができること

近藤尚己・五十嵐 歩 編

CONTENTS

I 地域共生社会づくりにおける認知症ケア

- 第1章 認知症の共生社会づくりケアは、点から面、個から地域・社会へ「弱さ」って、何だろう？／認知症のケアから、共生社会づくりへ／共生社会づくりに関する国内の動向／認知症ケアが目指す「健康」とは／他
- 第2章 日本における認知症・高齢者を取り巻く社会の現状と認知症施策／認知症ケアの変遷／日本における認知症施策／Dementia Friendly Community を目指す取り組み／他
- 第3章 地域共生社会づくりにおける認知症ケア／地域包括支援センター／地域密着型サービス／認知症初期集中支援チーム／訪問看護事業所／訪問診療

II 認知症のある人が暮らしやすいまちに —多職種と当事者の協働による取り組み—

- 第1章 当事者・家族の居場所・相談の場づくり／認知症カフェの役割／はたらく・役割をもつ場の提供／当事者の会
- 第2章 認知症への理解の促進・偏見の軽減を目指す取り組み／本人ミーティング／認知症サポーター養成講座／他
- 第3章 認知症のある人を見守る地域づくり／「認知症の人にやさしいまち」／住民・企業・専門職のネットワーク／コンビニ協働プロジェクト／地域生活の継続に必要な社会的支援につなぐコーディネーションとネットワーク／産・学・官・民で進めるまちづくり／急性期医療と地域がつくる認知症共生社会／「認知症にやさしい図書館」／他

- ◆ topics & 解説 認知症への「社会的処方」／評価指標／認知症への理解を深める VR プロジェクト／他
- ◇ 各事例のポイント

認知症 plus 地域共生社会

つながり支え合うまちづくりのために
私たちができること

近藤尚己・五十嵐 歩 編



B5判 / 184 頁
定価 2,860 円
(本体2,600円+税10%)
ISBN 978-4-8180-2399-4

日本看護協会出版会

ご注文に関するお問い合わせは
コールセンターまで

TEL 0436-23-3271 FAX 0436-23-3272
ホームページ ▶▶▶ <https://www.jnpsc.co.jp>



日本看護協会出版会 営業部
Twitter やってまよ

100BLG Inc.
100BLG Inc.